

# アグリ ワーク ポイント



今年もウンカの発生に警戒を！

初倉営農経済センター 白井瑛亮

## 中干し後の管理と病害虫防除対策

中干し後は、浅水程度に水を入れ、水が無くなっても1〜2日そのままにしておき、再び浅水程度に水を入れる間断かん水を行ってください。根の張りが良くなり、倒伏や秋落ち防止、登熟向上に繋がります。また、穂肥を施肥する場合は、充分たん水をして、3日間は止め水で行いましょう。

## 高温障害対策

呼吸作用の増加を抑制するために冷たい水と入れ替え、日中の気温が35℃、夜温が25℃を超える日が続く場合は、かけ流しかん水をしてください。乳白米の発生を抑える場合は夜間通水し、ほ場内の夜温を下げてください。出穂後5〜15日が高温障害に対して効果があります。

## 病害虫対策

紋枯病・穂いもち・コブノメイガ・ニカメイチュウ・イネツトムシの防除

出穂期前後に病害虫の被害を受けると米の品質や収量に影響します。育苗箱施用剤を使用した場合は、使用薬剤に応じた防除をしましょう。

- 粒剤…リンバー粒剤 4kg/10a (収穫30日前まで)
- 液剤…ディアナSC 5000倍 (収穫7日前まで)
- モンカットフロアブル 1000倍 (収穫14日前まで)

## ウンカとカメムシの防除は必須です！

今年も例年になく早い時期にウンカの飛来が確認されています。昨年のように深刻な被害が発生しないよう適期に防除してください。また、九州や近畿地方でコブノメイガも発生しているので、細心の注意が必要です。

## ウンカ類

- 早生…7月下旬
- 中生・晩生…8月上旬
- 粒剤…トレボン粒剤 2〜3kg/10a (収穫21日前まで)
- 液剤…エミリアフロアブル 1000倍 (収穫7日前まで)
- ※液剤散布はスズラン噴口や広角噴口でムラなく丁寧にカメムシ

**斑点米は等級を落とす大きな原因になります。** 防除のポイントは、1回目は穂揃い期に、2回目以降は前回散布から7〜10日後に散布。粒剤は液剤散布より3日前を目安に散布することです。また、畦畔や耕作放棄地などのイネ科雑草に潜んでいて、イネが出穂すると水田に飛び込み穂を吸汁するので、**出穂10日前までにほ場周辺を除草しましょう。**

- 粒剤…スタークル粒剤 3kg/10a (収穫7日前まで)
- スタークル豆つぶ 250g/10a (収穫7日前まで)

- 液剤…キラップジョーカーフロアブル 1000倍 (収穫14日前まで)
- スタークル液剤 1000倍 (収穫7日前まで)

穂いもち病多発地区は、同時防除を行ってください。